

トルバプタンの多発性嚢胞腎に対する患者指導

長崎腎病院

○小嶺真耶 渡部さゆり 矢野未来 江藤りか 佐々木修 一ノ瀬浩
澤瀬健次 橋口純一郎 原田孝司 船越哲

【背景】

平成 27 年 1 月より多発性嚢胞腎に対してトルバプタンが難病医療費助成制度の対象となり、比較的廉価に嚢胞の進展を抑制する期待が持たれる。トルバプタンの導入に当たっては、入院管理の上で電解質や肝機能のモニタリングを行いながら、患者へ適切な飲水量・服薬遵守を指導する必要性が考えられる。

【症例】

37 歳男性、公務員、トルバプタン開始前の eGFR=68.8mg/min/dL、BMI=30。尿量から換算した飲水指導の際、水だけでは飽きるため、他の飲料代用できるかなどの質問があり、特に、アルコールは毎日摂取していることが分かった。

【考察】

服薬指導により服薬アドヒアランスは得られたが、徐々に肝機能が上昇しトルバプタンを休薬した。γ-GTP が上昇していたため、脂肪肝の他にアルコールによる影響も考えられた。

【結語】

SE として肝障害が挙げられている薬剤においては、患者の生活習慣を把握しながら指導を考えていきたい。